

# 舟七 車輪

平成16年11月 発行

(財)伏木富山港・海王丸財団  
TEL 0766-82-5181  
FAX 0766-82-5197

## 第92号

### 10・11月の行事について

#### 10月17日 総帆展帆

北東の風が強く、時折風速15m/sを超える状況のため、ストームセイル(荒天時に使用する最低限の帆)のみを展帆しました。

天候： 晴 参加人数 53名  
展帆状態：スターボードタックスクエア  
ヤーズ 各マストU.T, L.T, outer jib,  
inner jib, jigger stays'l 合計9枚

#### 10月24日 総帆展帆

海王丸二世の寄港取り消しにともなって総帆展帆を中止しました。

#### 11月 3日 総帆展帆



今年度最後の展帆は心配されていた雨天を避け、約2ヶ月振りの総帆展帆を実施する事ができました。午後からは突風が吹きましたが、マストに登る際は風上舷の左舷を使用してお互いに声を掛け合いながら作業を行いました。ボランティアの方々には臨機応変の対応をしていただき今年の安全を最後まで保つことができました。ご協力ありがとうございました。

天候： 晴 参加人数 75名  
展帆状態：スターボードタックシャープ  
アップヤーズ フルセイル

### 海王丸運動会(ネブチュニアード)

11月3日総帆展帆日のお昼休みに実施しました。フォアマストチームが昨年の屈辱を跳ね返し見事優勝しました。楽しい時間の笑顔が弾ける爽やかな一日でした。

#### (競技種目)

1. ボルト・ナットレース
2. 綱引き
3. 椰子の実運びリレー
4. 輪投げ



### 11月4・5日 アバンディングセイル

ご周知の方も多いと思いますが、アバンディングセイルとは帆を取り外す作業をいいます。本年度も多くの方を楽しませた総帆を取り外しました。4日の午前中はセイルを乾かすためにおこなった解帆が結果的に風雨にさらす形となり半日遅らせての作業となりました。5日には全ての帆を無事に取り外し、次の活躍の日までしばしの休憩となります。因みに、海王丸の帆を1セット作製するためには全て手縫いで作業となりますので5年の年月が必要となります。1セットは約5000万円程度の高価なものです。大切にしないではいけません。冬期には帆を縫う作業があります。参加希望者は海事課まで御連絡ください。

ボランティア参加者数； 4日 13名  
5日 9名

## 12月・1月の行事予定

### ボランティアの集いについて

毎年恒例の“ボランティアの集い”を下記の日程で行います。今年一年の総帆展帆を振り返り、いっそうの団結力を高めていきましょう。今年の冬は富山エクセルホテル東急で実施します。海王丸ボランティアの方々の来場を心よりお待ちしております。

日時；平成16年12月4日（土）  
18：30～20：30  
（受付開始は18：00～）

会場；富山エクセルホテル東急  
最上階15F リコモテ  
（JR富山駅南口から徒歩3分）

住所；富山市新富町1-2-3

電話；076-441-0109

会費；無料

内容；立食パーティー、ボランティア表彰（精勤賞）、ミニゲームなど

当日は大変混雑することが予想されます。可能な限り公共交通機関をご利用ください。ご協力お願い致します。



### ボランティア表彰について

本年度も無事に総帆展帆が終了しました。これもボランティアの方々の安全に対する意識の高さ、天候にあわせた作業姿勢及び普段の健康管理の賜物と思います。二回の総帆展帆が中止となったため8割以上（本年度は7回以上）参加されたボランティアに精勤賞が送られます。受賞者は以下の方々です。おめでとうございます。受賞対象者にはボランティアの集いにて表彰いたします。

受賞者（47名）

荒木孝文	磯部富次	伊東可志郎
大川雅永	澤井久義	玉井文次
西部銃郎	藤井睦子	高澤昭二
宮越謙三	明神外二	森田恵子
若林邦男	高田正二	山口信子
金森進	酒井聰	長谷孝一
水口勝務	尾崎孝	武田信幸
河原秀夫	中山博	西野啓邦
池崎勝巳	津田賢二	中島紀明
若林良作	今井雄治	吉田勇一
白井孝雄	立野節子	二山美和
米田良雄	塚田雅士	中松芳宏
小泉理恵	本保澄雄	和田耕一
白田和吉	直井洋一	長久昇
釣與悦	大納武	塗師博
安守潔	川野辺清華	

（敬称略）

### 餅つき大会について

海王丸ボランティアの親睦を深め、海王丸の発展、ボランティア・海王丸見学者の安全を祈願するために毎年恒例の餅つき大会を行います。以下の予定で実施します。飛び入り参加可能です。多数の参加をお待ちしております。

日時；平成16年12月23日（祝）  
09:00頃～15:00頃まで

場所；海王丸西側棧橋（乗船口横）

内容；餅つき、お飾り用餅作り、乗船者先着100名様への振るまい

### 鏡開き大会について

新春の鏡開きを下記のとおり行います。

日時；平成17年1月10日（月）  
09:00～13:00頃まで

場所；海王丸西側棧橋（乗船口横）

内容；餅焼き、乗船者先着100名様へのぜんざい振るまい

## お知らせ

海王丸は船体整備のため、1月4日～11月26日の間は一般公開をしておりません。年末は12月29日～1月3日まで休業いたします。すばらしい新年を迎えられますようお祈り致します。

## 「SPLICING THE MAIN-BRACE」

さて、時々顔を出しますこのコーナー、もう6年近くも続いているのですね。これからもいろいろな知識をお伝えしようと思えます。単なるトリビアになってしまうのかも知れませんが、

新たにボランティアになった方も多くなりこの「SPLICING THE MAIN-BRACE」ってどんな意味と、疑問に思う方も多いと思えます。実は舵輪54号に詳細を書いてしまっているのですがここでは簡単に説明すると、大変な作業をした後などに船長から乗組員に酒を特別配給することを言っています。

少し外れますが、Spliceを使った言葉で「Different ships, different splices」と言うのがあります。これは日本語で近いことわざとして「郷に入っては郷に従え」と言うのがあります。

さあ本題に入って、今回は「WAREHOUSE」です。ちょっと前に日本中ここの服を着ていると言ってもおかしくないぐらい人気があった衣料品店の名前もこれを使っています。辞書で調べれば簡単に「倉庫」と言うのが出てきます。船の関係者でWAREHOUSEと言うと普通、保税倉庫を指します。船で輸入された荷物を通関するまで一時的に保管する倉庫を言います。実はこの保税倉庫のことを日本語で上屋(ウヅ)とも言います。今でも港には「1号上屋」などと書かれています。

この上屋、何となくWAREHOUSEに似ていると思いませんか？ 実は明治の日本で倉庫のことをWAREHOUSEを言っている外国人を見て、これを「うわや」と言うようになったのが語源なのです。

## ボランティア投稿コーナー

『海王丸二世座礁の体験記』  
ボランティアNo.301 武田信幸

この度、私は大変な経験をする事になってしまいました。本来ならば、普通の体験記を書くべきところですが、ご周知のとおり悲しい事態が起きてしまいました。海王丸に乗っていた当事者の一人として皆さんにご報告しなければと思い、筆をとりました。時間は、なにぶんにもはっきりと記録を取っていたわけではないので大体の記

憶によるものです。実際とは多少違うかもしれません。

10月18日室蘭出港の前に一等航海士より「台風が接近しているので予定日に着かないこともある。1,2日遅れる可能性があるので仕事などで乗船が困難な方は出港してしまう前に船を降りてください。」との話がありました。降りる人は一人もいませんでしたが、何か悪い予感がありました。室蘭発新湊の航海はいろいろなカリキュラムを行いながら20日富山沖へ仮泊しました。

09:00 富山沖錨地に仮泊。波はまだ静かですが夜になるにつれて風が徐々に強くなってきました。

20:00以降、確か2回火災アラームがなりました。後で思えば揚錨機の加熱によるものらしい。

22:30～23:00 “総員退船の用意”で第一教室へ向かう。激しい揺れの中、ライフジャケットとヘルメットをやっとの思いで着け、ボンク(ベッド)の上段から必死で降り、16号室を出て階段を上へと向かうが上の方から水が来ている。これはただごとではないと思いながらも階段を上がり第一教室へ行くが中へ入れず廊下で待機する。(揺れが激しいので両脇の手摺りへ必死に掴まる)

23:00～24:00 指導員室のスカツル(舷窓)が破れて大量の水が一気に流れ込み全身ビショ濡れになる。ピアノ、テーブルの上に避難するが水は益々増える一方。固定されているテーブルが水で浮き上がり、揺れでテーブル、その他が水と一緒に飛んでくるし、もう骨が折れるかと思った。一時は死も覚悟するほどに……。最も恐怖の場面でした。第一教室も危なくなってきたので士官達の誘導で配膳室の窓からギャラー(調理室)へと逃げる。そこから士官サロンの中へ。しかし、そこへも水がテーブルの高さまで増えてくる。人数が多いので研修生・実習生の一部は上階にある無線室へと移動する。どうやら船は座礁した模様で水深は浅く、沈没の心配はないとのこと。状況が少しずつ分かってくる。

21日01:00～02:00 無線室で待機。中は50～60人位がすし詰めで蒸し風呂状態。でもこの暖かさが体温低下を防いでくれる。我慢我慢。波が押し寄せる度に凄い衝撃がくる。ハウスごと飛ばされる感じ。天井の換気口より海水が流れ込む。そのために周辺には人がいられない。

05:00 外がやっと明るくなり救助(保安庁)が来た様子。波風は相変わらず強く、生きた心地なし。

06:00～07:00 満潮を過ぎて少し波が弱くなったかと思うがやはり強い。一等航海士のリードで歌を唄う。(海王丸の歌、海その愛)励ましの言葉を掛けたり、気圧の変化を測って伝令にて士官サロングループへ

と伝え、希望を持って救助の瞬間を待つ。みんなのどが渴いているのでペットボトルの残りとかポットの残りの水などを紙コップに入れみんなで回し飲む。口を潤す程度だが命の水であり、うまい。一等航海士は救助される時、手足が動くようにと手足の運動もする。右手、左手、右足、左足、足の親指動かして準備する。外部との連絡は、実習生・乗組員などから集めた携帯電話が唯一のライフラインとなる。一等航海士本人は怪我をしているのによく頑張っている。疲れて「5分休ませて」という一幕もあった。

08:00 波は相変わらず強くみんなで励まし合って救助を待つ。その間も行方不明者の確認そして発見と時は流れる。

ヘリコプターによる船橋付近の救助があったと聞いて希望を持って待つ。

12:00~13:00 特救（海上保安庁特別救助隊）による救助活動が本格的に始まった。特救は海王丸の2個所に乗船し、テトラポット（波消しブロック）と船にロープを渡し、ハーネスにて救助される。自分は無事救助されたが、全員救出されるまで気が抜けない。後に全員救助の知らせを聞きやっと一安心した。（15時頃）

着替えも用意して頂いて濡れた体には本当にありがたい。お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。

救助された後に振り返って海王丸を見ると無惨な姿になっており、涙なくして見ていられなかった。あとで紺青（船首像の名前）がなくなっていると知り、みんなの身代わりになってくれたのかと思うとやりきれない。一日も早く元の“海の貴婦人”に戻って私たちの前に勇姿を見せて欲しい。

### 質問コーナー

（質問）海王丸はもう出港することはないのですか？

宮野小学校児童

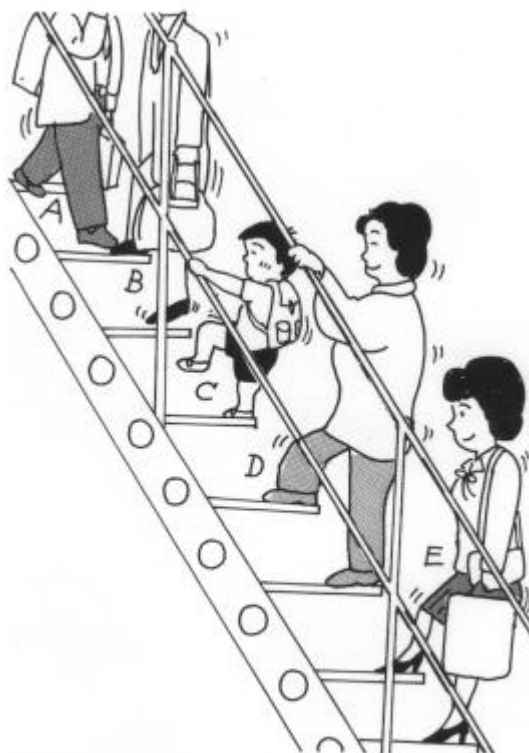
（答え）船は、車の車検と同じように定期的な検査があります。この検査には、船底部分を検査する内容があります。多くの船はドックと言って船を修理する場所で船を水面上に上げて検査を受けます。海王丸も船として例外ではなく、検査や船底部分の修理が必要となればドックに向けて出港しなくてはなりません。基本的には新湊にいつも係留されていますのでいつ見ても海王丸は動いていないように見えることと思います。海王丸も新湊から離れてもう一度海の上を走る日を夢見ていることでしょう。

前回91号vol.8の答え

1. ハンドレールにのって作業しているので、足をすべらせて転落する。
2. ポケットに入れた工具類が落ちて、下にいる人に当たる。
3. 送信中に作業しているため、感電する。

次のイラストにはどんな危険がひそんでいるでしょうか？考えてみましょう。

答えは次号で！



入港時、家族が面会にきてタラップを上がっている。

（船員災害防止協会刊：商船K Y Tイラストシート集シート95より抜粋）

### 終わりに

気付かれ了吗？今回の舵輪92号から、カラーでの発行となりました。舵輪を愛読されている方々の驚かれる顔が目につくようです。事務所のレーザープリンターが故障し、カラーレーザープリンターが導入されたのです。（喜）ボランティアの集い案内の会場もカラーだと一目で分かりますね。ところで、今年の舵輪も本号にて終了いたします。本年は大変お世話になりました。どうぞ新年もよろしく願いいたします。

（ごっしー）